

平成23年度・24年度

事業紹介

協働事業&市民活動助成事業



松戸市

はじめに

松戸市では、「豊かで活力ある地域社会の実現」をめざして、平成19年6月に「協働のまちづくり条例」を制定し、市民及び市民活動団体、事業者と、松戸市が協働して、多様化する地域課題に向き合い、互いに対等の関係を持って解決していく「協働のまちづくり」を推進してまいりました。

こうした背景には、少子高齢化が加速度を増して進み、税収自体も縮小化するなか、これまでの「行政サービスは市役所」、「公共の主体は公務員」といった既成概念にとられず、地域課題の性格によっては、市民や市民活動団体の活力を引き出し、新たに公共の担い手になってもらった方が、本市が単独で実施するよりも、効率的でより効果が期待できる事業もあるからです。

そこで、本市は条例制定に続き、具体的な施策として、平成19年度に、協働事業提案制度と市民活動助成制度の2つの支援の仕組みを創設しました。

協働事業提案制度は、行政と協働して地域の課題を解決して行こうとする、積極的で力のある市民活動団体を対象に負担金を交付する先進的なモデル事業でございます。

一方、市民活動助成制度は、NPOに代表される市民活動団体が、新たに公益性の高い取り組みに着手したり、既存の取り組みを発展させる場合に、松戸市協働のまちづくり基金を活用して、助成金を交付する育成型の補助事業でございます。

これら2つの支援制度も、創設して以来5年が経過し、ようやく市民に定着してきたように実感しております。この5年間でふりかえりますと、協働事業提案制度には計72件の提案をいただき53事業を採択し、市民活動助成制度には計63件の応募をいただき53事業を採択し、福祉、環境や教育に関する事業から、地域のコミュニティに関する事業まで、幅広く各分野に行き渡っております。

とりわけ、協働事業提案制度によるモデル事業から、形は様々ですが、市民活動団体が、行政サービスの新たな担い手となる、本当の意味での「協働事業」に発展する事例も増えてきたことは、大変喜ばしく、将来の行政運営に新たな展望が開け行くものと認識しております。

本冊子につきましては、市民の皆様「協働のまちづくり」への関心を高めていただくことを目的に、平成23年度に実施した事業と平成24年度に実施している事業について、それぞれ紹介して編集しました。

是非、「市民の誰もが暮らしやすい松戸市」の実現に向けた、市民活動団体の成果をご覧いただくとともに、協働のまちづくりの推進にご理解とご協力をお願いします。

松戸市協働のまちづくり推進会議会長
市民環境本部長 川上 良雄

目 次

○平成23年度事業の取り組み	P. 1
協働事業	P. 3 ~ P. 12
市民活動助成事業	P. 13~ P. 26
○平成24年度事業の取り組み	P. 27
市民活動助成事業	P. 28 ~ P. 32

(平成23年度事業の取り組み)

協働事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
	事業担当課	
家庭生ごみ堆肥づくり事業	まつど生ごみ資源化の会 環境業務課 環境計画課	P.3
家庭用廃食油の回収による地域活性化事業	NPO法人 松戸エコマネー「アウル」の会 環境計画課 商工観光課	P.4
キッズイノベーション事業	特定非営利活動法人サイエンスシャワー 生)企画管理室	P.5
ゲットユアドリーム事業	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド 子育て支援課	P.6
市民と市職員がより良い関係を構築するための講座事業	まつど協働のまちづくり応援団 協働推進課	P.7
世代間交流の場・トキ塾事業	常盤平地域活性隊 常盤平支所	P.8
楽しい健康体操Ⅱ推進活動事業	特定非営利活動法人 人材パワーアップセンター 保健福祉課	P.9
パパ手帳を使った男性への育児支援事業	特定非営利活動法人 子育て支援ぼこら 女性センター	P.10
昔のあそびとわらべうた事業	昔のあそびと遊ぼう会 六実支所	P.11
ユースボランティア育成を通じた子ども地域活動支援モデル事業	特定非営利活動法人こばていー子ども参画イニシアティブ 青少年課	P.12

市民活動助成事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
「宇宙の約束」上映と山元加津子氏講演会	まつど「4分の1の奇跡」上映実行委員会	P.13
「AEDの正しい使用法を広めたい」事業	デフィブリーるの会	P.14
「紙敷石みやの森」保全育成事業	松戸里やま応援団 七喜の会	P.15
芸術による認知症予防及び進行抑制の為の事業と 認知症高齢者の介護者へ支援事業	臨床カルアートをひろげる会	P.16
健康な心を育む勇気づけの対応	男女共同参画推進グループ ファミリーサポート・勇気づけ	P.17
五香、六実地区歴史再発見事業	香実会	P.18
Jキッズ 子どもまつり事業	特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド	P.19
生活に役立つ「暮らしとお金」のセミナーと相談会	松戸生活やくだちたい	P.20
「手と手で話そうPart2」事業	NPO法人子どもとまつど	P.21
八ヶ崎の森再生整備事業	松戸里やま応援団 一起の会	P.22
福祉のまちづくり推進のためのシンポジウム・先進地見学事業	バリアフリーまつど市民会議	P.23
不登校の理解を深める本の作成と配布事業	不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』	P.24
まちづくりコラボサロン事業	まつどサロンネットワーク	P.25
若者と協働の森づくり	松戸里やま応援団 三樹の会	P.26

協働事業

家庭生ごみ堆肥づくり事業	協働事業者	まつど生ごみ資源化の会
	事業担当課	環境計画課・環境業務課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

1. 堆肥化作業・事業担当課打ち合わせ会議（14回）
2. 作業場の設置、維持管理・床材準備作業（31回）
3. 生ごみ収集・一次分解処理、二次分解処理作業（118回）
4. 野菜・花卉栽培作業（9回）

事業費	211,784円
自己資金	21,784円
（労力換算額）	303,875円
負担金	190,000円

平成23年度事業の成果

1. 生ごみ収集量は8ヶ月間で896.5kg(10世帯分、床材使用量94.4kgを含む)で、床材使用量を差し引いた実質生ごみ収集量は802.1kgであった。1世帯から発生する1カ月の生ごみ量はおおよそ10kgで、1日当たりになると1世帯330gとなる。
松戸市は約21万世帯なので、年間になると25,200トンを集めたことになる。
2. 出来た堆肥の量は用いた生ごみ量約640kgに対して約158kgであった。約25%が完熟堆肥になったことになる。
3. 協働事業による「家庭生ごみ堆肥」については、福島第一原子力発電所事故による放射能汚染が心配されたので放射線量の測定を行なった。ハウス内の空間放射線量は0.21~0.22μSv/h、床材(古い落ち葉)0.38~0.40μSv/h、床材(新しい落ち葉)0.29~0.33μSv/h、床材(モミガラ)0.22~0.25μSv/h、一次処理中の堆肥0.20~0.23μSv/h、二次処理中の堆肥0.25~0.26μSv/hであった。
また、出来た堆肥は0.22~0.23μSv/h、放射性ヨウ素は不検出、放射性セシウムは245ベクレル/kgであった。堆肥中の放射性セシウムは食品の暫定基準値の500ベクレル/kg以下であった。
4. 野菜栽培試験
 - (1) 試験区は1区画1.35㎡で、化学肥料施用区(1kg/100㎡)、堆肥施用①区(200kg/100㎡)、堆肥施用②区(400kg/100㎡)を基準として行なった。栽培植物はコマツナ(晩生小松菜)。
 - (2) 収穫量(1.35㎡当たりの地上部重量)は、化学肥料施用区が3,100g、堆肥施用①区3,510g、堆肥施用②区4,000gであった。
 - (3) 地上部の生育、葉脈の明瞭さ、葉色の濃さは、いずれも堆肥施用②区で優れていた。
5. 家庭生ごみ堆肥づくり事業を通じて得られた経験をもとにして、堆肥づくりマニュアル(素案)を作成した。

【協働事業者紹介】

まつど生ごみ資源化の会は、資源循環型社会を迎え「生ごみは宝」の発想を持って、生ごみを資源化していくために市民・行政・企業が何をすることが必要か、何が出来るかを学習し、他団体との交流を通じて考えようと平成17年3月に設立されました。

問合せ先： 大森 啓安 電話&FAX 047-342-3938

協働事業

家庭用廃食油の回収による 地域活性化事業	協働事業者	松戸エコマネー「アウル」の会
	事業担当課	環境計画課・商工観光課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

現状では家庭用廃食油は燃えるごみとして排出され、市内の焼却施設で処理されています。また地域コミュニティの場であった商店街も少子高齢化や大型店の進出で活力がなくなっています。

23年度は松戸市が提唱している「もったいない運動」の一環で

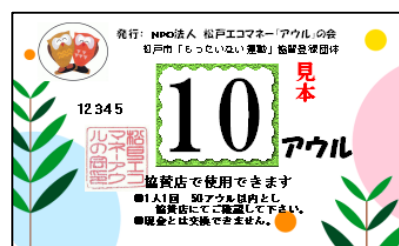
協働事業として松戸市全域にわたり家庭用廃食油回収の運動を展開していきます。その仕組みは家庭用廃食油を回収してBDFに転換して有効活用するとともに、この事業に協力した市民にお礼として地域通貨「アウル」を配布します。このアウル券は運動に賛同した協賛店で10アウルで10円の割引やサービスを受けられるようにします。これにより市民の「もったいない運動」への関心を高め、環境への意識の高揚を図るとともに、地域商店の活性化が期待されます。

それとともに、美しいまちづくり、安心、安全なまちづくりに活動しているボランティアにも「アウル」券を配布して、ボランティア活動への感謝の気持ちと、やる気を引き起こし、協賛店と同じような割引やサービスを受けられるようにします。

事業費	461,487円
自己資金	83,049円
(労力換算額)	354,750円)
負担金	378,438円

平成23年度事業の成果

- ① 家庭用廃食油回収拠点 12ヶ所の確保
- ② 「アウル」券が使用できる協賛店 38店舗の確保
- ③ 23年度廃食油回収実績 605L、アウル券の配布実績 685枚
- ④ スクールガード等協力ボランティアとして五香新町町会が10月より取組開始
- ⑤ 八ヶ崎スクールガードとメイク松戸ビューティフル駅前清掃へのアウル券の配布実績 1730枚
- ⑥ 花壇づくりネットワークへのコンタクト



【協働事業者紹介】

平成15年1月からスタートし、16年6月にNPO法人格を取得しました。会員相互に「ありがとうございます、いったり来たり」を合言葉に会員相互のサービスのやりとりを行っています。平成16年には千葉県を受託事業として五香西口「サンロード商店街」をモデルに商店街活性化事業を行いました。平成21年7月より家庭用廃食油の回収事業を行っています。会員数 40名

問合せ先 松戸エコマネーアウルの会 事務局 電話&FAX 047-368-0980

住所 松戸市稔台7-7-13 (株)ダイエックス内

Eメール matsudoowl@s3.dion.ne.jp

ホームページ <http://homepage2.nifty.com/matsudo-owl>

協働事業

キッズイノベーション事業	協働事業者	特定非営利活動法人 サイエンスシャワー
	事業担当課	生涯学習本部 企画管理室

【事業内容】

平成 23 年度事業の取り組み

我が国が 21 世紀にも引き続き活力にあふれ、豊かで安全、安心な社会を構築するためには、科学技術のより一層の振興を図り、世界の先頭に立って新しい知識の創造や技術革新を行う「科学技術創造立国」を実現していくことが必要不可欠です。そのためには、青少年に科学技術や理科に対する興味・関心を培い、魅力的な身近な教材を使用することにより、子供たちの知的好奇心と探究心を刺激し、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」とする理科実験を提案

地域の子供たちを対象に、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」する理科教室（松戸市立柿ノ木台小学校・松戸市立馬橋北小学校・松戸市立六実中学校・松戸市立常盤平中学校）を開設した。各会場校において、年間 20 回の実験を A（1-2 年生）コース・B（3-4 年生）コース・C（5-6 年生）コースに分けて行いました。

事業費	2,407,800 円
自己資金 (労力換算額 :)	2,200,000 円 588,000 円)
負担金	207,800 円

平成 23 年度事業の成果

「子どもたちを対象に、五感を働かせ、体を動かし「実験・実習・観察・創意工夫」する理科教室を開設し、子どもたちの科学に対する興味・関心を高めます。」については、ほぼ目標に達し、参加者のリタイアもなく、充実した理科・工作を行うことが出来た。年数を重ねるにしたがって、理論的に理科をしたいと児童が増えてきた。例えば化学変化した時の化学反応式を使って導きたい児童。また 2 年間理科実験をして、理科に対して興味を持ち、ますます理科が好きになった児童。母親が理科に対する関心態度に成長した我が子どもに驚いている話を聞きました。児童の好奇心が高まっている様子で、ロボットをパソコンで制御する実験を希望する児童が多くなってきました。

参加児童：

柿ノ木台小学校	1220 名	(延べ数)
六実中学校	580 名	(延べ数)
馬橋北小学校	1380 名	(延べ数)
常盤平中学校	720 名	(延べ数)
合計数	3900 名になりました。	

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人 サイエンスシャワー
担当 横田文男

<http://www.scienceshower.com>

〒270-2241 松戸市松戸新田 585

tel.047-367-2663 fax.047-367-2665

e-mail: info@scienceshower.com

協働事業

ゲット ユア ドリーム事業	協働事業者	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド
	事業担当課	子育て支援課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

対象：中高生

目的：自分の将来について積極的・前向きな若者が増える。

方法：様々な職業や経歴を持った大人と交流の場を持つ。

《具体的活動》

*松戸市内の中学・高校へチラシ配布依頼を行ったり、7月の新松戸まつりでPRを行った。

*5月（各テーマを設け、自分の未来予想図を描く）・7月（自分発見）・11月（夢の実現）の3回ミニフォーラム・ワークショップを持ち、多くの中高生に様々な職業や経歴をもった大人と対等に話ができる交流の場を提供した。様々な価値観に触れ、実際に考え、発言する機会を持ち、視野を広げるきっかけにする。

*継続的な関わりを持つことができるように、現在法人が独自事業として行っている中高生の広場で「ユースペース」の活動紹介を行った。

事業費	257,889円
自己資金	61,889円
（労力換算額）	180,250円
負担金	196,000円



平成23年度事業の成果

*参加者3回のミニフォーラム・ワークショップに計63名が参加し、講師の話聞くだけでなく、中高生が受け取ったことを話し合う機会も作った。意見交換を行い、友達の輪が広がっていた。「仕事紹介」だけでなく、興味や自分の関心事が将来につながっていることを発見するきっかけとなった。「将来について真剣に考えたい」「夢を実現するまで諦めない」「今できる事をやってみる」などの感想を生き生きと話し合っていた。

*市内の高校7校を訪問する事ができた。松戸市内の中学・高校へ事業PRとチラシ配布依頼を行ったが、チラシ配布での参加者を募ることができなかった事は、23年度の課題として残った。

*事業を通して「ユースペース」に遊びに来てくれる中高生も増え、継続的な関わりを持ち始めている。

*講師の方々も自分の体験が中高生に影響を与えていることを実体験し、今後の協力もその場で申し出てくださった方が多かった。事業の支援者を得ることができた。

【協働事業者紹介】

*子育て支援、居場所づくり：乳幼児期から思春期までの子育て中の親と子どもの支援、子どもが安心して成長できる健全な環境・居場所づくりを目指している。

・「ユースペース」…中高生が自由に過ごせるフリースペース。平日夕方になると中高生が「ただいまー」と集まってくる。宿題や将棋、楽器の練習など、自由に過ごしている。彼らの話にゆっくり耳を傾け、いろいろな相談にも乗っている。夏には、「里山草刈り応援隊」として自然体験も実施している。

・Jキッズ…ボランティア活動を通して、子ども達の思いやりと自主性を育てる。

・おやこDE広場旭町…主に0歳から3歳を対象にした親子の遊び場（松戸市委託事業）

《問合せ先》 特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド

住所：松戸市新松戸4-257-1 ニューホームズ 第一マンション1階

HP ht t p : //www.kosodate-hiroba.com

メール j_loveties@yahoo.co.jp

電話：047-344-0544（SRCビル内） 担当 松本

協働事業

市民と市職員がより良い関係を構築するための講座事業	協働事業者	まつど協働のまちづくり応援団
	事業担当課	協働推進課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

市民15名・市職員15名を対象として信頼関係が構築されるきっかけを提供。

事業費	103,763円
自己資金	18,600円
(労力換算額)	68,000円
負担金	85,163円

【講座内容】

- 1日目 講師：石上瑠美子氏 講義&ディスカッション「お互いを知ろう」
- 2日目 講師：町山賢一氏 グループワーク
「夢のあるまちづくりを企画してみよう」
- 3日目 講師：町山賢一氏 グループワーク
「夢のあるまちづくりを企画してみよう② 条例編」

- 10月6日 第2期講座1日目 参加者（市民：15名、職員14名）
- 10月20日 第2期講座2日目 参加者（市民：11名、職員15名）
- 10月27日 第2期講座3日目 参加者（市民：11名、職員17名）
- 1月12日 第3期講座1日目 参加者（市民：8名、職員16名）
- 1月19日 第3期講座2日目 参加者（市民：8名、職員15名）
- 2月2日 第3期講座3日目 参加者（市民：10名、職員15名）

※なお、第1期講座については、震災の影響により研修開催を中止

平成23年度事業の成果

職員、市民ともに15名以上の参加申込があった。

ただし、三日連続の参加となると出席割合が少なくなりました。この点は反省材料であり、今後は参加しやすい仕組みを考えていきたい。

講座の満足度としては、第2期では満足できた・ある程度満足できたが88%、

第3期では満足できた・ある程度満足できたが78%であった。

アンケートのコメントでも、市民「おもしろいアイデアが沢山あってそれを持っている人も沢山いることが分かった」。職員「市民の方々と業務以外のお話をする機会をなかなか無いため、一緒に課題に取り組めて良かった」等の意見が出た。このような市民と職員と一緒に講座を受ける機会というのはそれほど多くなく、その場を提供できたことに意味があったと思う。

【協働事業者紹介】

松戸市が推進する協働のまちづくりの趣旨に賛同し、市民活動団体が活発なまち「まつど」の実現に寄与することを目的に設立。

平成20年度より「チャリティーバザー」「フリマ出店」などを実施し、その売上金を協働のまちづくり基金に寄附しています。

《問合せ先》まつど協働のまちづくり応援団 会長 榎本孝芳 090-8946-9554

協働事業

世代間交流の場・トキ塾事業	協働事業者	常盤平地域活性隊
	事業担当課	常盤平支所

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

常盤平地域活性隊は、地域活性化への取り組みの場として、平成19年3月以来、音楽とアートを中心に各種イベント「トキサイ」を開催してきておりました。さらに「トキサイ」の一事業として、22年度より、松戸市の協働事業で住民参加型の学習塾「トキ塾」を立ち上げ、23年度は2年目の取り組みとなりました。

「トキ塾」はコミュニケーションの醸成や、高齢者や子育て世代・若者にも生きがいを持って生活していただくことを最重要課題として取り組む活動です。

これら「生きがい」をテーマに取り扱う、既存の団体、組織、各種趣味講座や生涯学習講座など数多くありますが、2年目を迎えた「トキ塾」は、東日本大震災での「絆」の重要性や支援を含め、人と人とのつながりを「知ること」「つくること」「一緒に体験すること」「楽しみとともにお互いに支えあうこと」などをめざし活動してまいりました。

今回年間18回の講座を開催して、世代間の交流も含め、できるだけ多くの住民が、いつでも好きな時に気楽に参加でき、講師と参加者および参加者同士が、学びながら双方向的にコミュニケーションをはかれる機会と場所を提供し、地元町内会、自治会、地域団体及び行政と、さらに外の風を入れて交流の場を広げ、更なるコミュニケーションの醸成をはかれる活動を目指します。

事業費	359,760円
自己資金	99,400円
(労力換算額)	398,000円
負担金	260,360円

平成23年度事業の成果

世代間交流の場・「トキ塾」を18回実施いたしました。今回は東日本大震災という未曾有の大災害があり、あらためて人と人との「絆」や、地域で支えあうことの大切さを実感する年となりました。昨年からの継続で紙トンボや工作作りの「ものづくり系」、陶芸教室や初めての油絵などの「アート系」、マネー講座や科学教室などの「学習系」、世代として一番参加の少ない青年世代を対象とした「青年の社会貢献と今時の婚活事情」などの講座を開催した他に、新たに「被災地支援の手袋作り」の講座などを開催いたしました。地域の活動として少しずつ定着して認められた結果、自治会と音楽関係の講座などを協働開催できるようになりました、まだまだ地域への周知徹底が足りませんが、一步一步着実に地元で定着してきた実感の持てる活動になってまいりました。

【協働事業者紹介】

常盤平地域活性隊とは、孤独死の町として有名となって元気がなくなった、常盤平地域を活性化するのが目的のボランティアグループ。常盤平団地は昭和30年代に完成した、団地の草分け的存在、日本の高度成長期時代を支えた緑あふれる歴史のある街で、常盤平地域の色々な方々と協力してまちの活性化を目指しています。「トキサイ」(常盤平祭と常盤平を彩るなどの願いもこめた名称)というイベントを開催し、商店街広場を中心として音楽やパフォーマンス、アート展示、街歩き等を実施するイベントで、楽しみながら人々とコミュニケーションをはかり、誇りと夢を持ちながら常盤平を元気にしていくことを目的として活動しています。

《問合せ先》 事務局 榎本 電話 090-8946-9554 まで

楽しい健康体操Ⅱ 推進活動事業	協働事業者	特定非営利活動法人 人材パワーアップセンター
	事業担当課	保健福祉課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

「楽しい健康体操いつでも・どこでも・だれでも」普及にチャレンジ

1、取り組んだ課題と事業

高齢者が生き生きと自立して過ごせるよう、自宅近くで楽しい健康体操が出来る「場」を松戸市内に（町内会館を含め）開設（23年度5か所設置）します。

そのため、**高齢者運動指導員**と「場」の教室運営に当たる**マネージャー**育成を進め、養成講座・実技研修を実施。

2、楽しい健康体操の対象者は、おおむね**65歳以上**の方です。

3、事業は、NPO法人人材パワーアップセンターと松戸市保健福祉課との**協働事業**で推進します。

4、事業内容

- 高齢者運動指導員育成 ○推進マネージャー養成
- 提供する「場」の普及推進・質の向上

「いつでも・どこでも・だれでも」継続して体操が出来る環境を整えることで、多くの方の健康を維持し、**福祉予算抑制に寄与**すると共に、地域活性化に貢献することを目指しました。



平成23年度事業の成果

〔三日月・風早・泉が丘・六実・八ヶ崎で教室開始できました！〕

- 運動教室5教室の開設（町会会館3か所を含む）
- 高齢者運動指導員13名の育成
- マネージャー9名の育成（企画・立案・会場運営）
- 新設会場への延参加人数900名
- アンケートの実施による効果測定

アンケート実施で、高齢者が楽しく安心して集まれる「場」おしゃべりができる「居場所」「仲間作りの場」「生きがい発見の場」への展望が見えてきています。

これからも**利用者に対する謙虚な心**を忘れず、スタッフ間の**和とレベルアップ**を目指していくことを確認しています。

「いつでも・どこでも・だれでも」松戸市内で健康体操が出来ることが私達の思いです。



【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人 人材パワーアップセンターの活動理念は

「地域の人たちの思いや夢の実現を支援し・実践し、生きがいの発見と地域の活性化を図る」ことです

この基本理念に基づきNPO法人人材パワーアップセンター内の、各チームが、それぞれ「受益者視点に立ちそのニーズと深く合致する社会サービスを単純明快でシンプルなコンセプトで提供」する活動をしています。自分も周りの人も楽しくなる社会サービスモットーは「わくわくいきいきたのしくね！」です

詳しくはホームページ www.npo-jpuc.jp をご覧ください

《問合せ先》 NPO法人人材パワーアップセンター 松山三郎 047-369-5737

協働事業

パパ手帳を使った男性のための 育児支援事業	協働事業者	特定非営利活動法人子育て支援 ぽこら
	事業担当課	女性センター

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

1. 22年度に養成したボランティアスタッフとともに、パパ手帳を広報すること、配布することを大きな目標に活動した。

2. 父親同士のネットワーク作りをめざす。

パパ手帳を広報配布するために、年度のはじめに子育て支援施設、保健センターなどに協力をお願いした。

子育て支援センターではイベントで赤ちゃんの参加が多いときにボランティアが出向き、主に母親から父親の手に渡るように働きかけた。

保健センター（市内3ヶ所）では、パパママ学級で広報配布を直接これから父親になる人たちに向けて配布することができた。

秋には、女性センターとイクメン講座プラス！として、ベビーヨーガの講座を行い、父親同士が話し合う場を設けた。

松戸まつりでは、父親たちに育児の様子やどのような情報がほしいか、などのアンケートをとった。ゆうまつどフェスタでも手帳の広報・配布を行なった。

子育てフェスティバルでも昨年同様、多くの父親に手帳を配布し、アンケートをとることができた。このアンケートで得た結果は次年度の手帳増刷の際、内容に反映させたい。

「mixi」のコミュニティサイトで、いつでも意見を書き込めるようにした。



事業費	100,200円
自己資金	25,000円
(労力換算額)	181,000円
負担金	75,200円

平成23年度事業の成果

手帳の広報配布は、1000部印刷したものをほぼ配布できた。

ボランティアスタッフとともに年間を通していっしょに活動できた。

広報する際、父親たちに手帳のモニターとしてパパ手帳通信に登場してもらい意見を聞くことができた。[松戸まつり]や[ゆうまつどフェスタ]など様々な場面で男女共同参画の視点を持った活動ができた。

【協働事業者紹介】

特定非営利活動法人子育て支援ぽこら

小さな子どもと親が元気で安心して生活できるように活動しています。

- ・松戸市委託事業（おやこDE広場ゆうまつど・おやこDE広場南花島）
- ・乳幼児の親子のためのイベント等の開催
（リトミック・子育て関連の講座の開催）

《問合せ先》

URL <http://www.geocities.jp/pocora616/>

e-mail pocora060620@yahoo.co.jp



協働事業

昔のあそびとわらべうた事業	協働事業者	昔のあそびと遊ぼう会
	事業担当課	六実支所

【事業内容】

<p>平成23年度事業の取り組み</p> <ol style="list-style-type: none"> 講習会の開催 ①けん玉・カブラ講習会開催2回(5/7, 7/2) こま講習会の開催2回(8/6, 12/3)予定通り開催できました。 地域のボランティア団体と共同で「六実っ子まつり」(10/30)に参画し、幼児、小学生、中学生、父兄と一緒に大いに盛り上がりました。 昔あそび大会を開催(2/4) こま、けん玉、あやとり、竹返し、羽根つき、まりつき、竹返し、カブラ等で、地域の子ども、保護者の方々と遊び、交流が図れました。 キャラバン見本市六実へ協働参画して、地域のボランティア団体との交流ができ、かつ地域の方々との交流が図れ大変有意義でした。 六実桜まつりは、東日本震災の影響で開催できなかったが、代わりに五香児童館にて昔あそびを披露(7/25)し、子供達と一緒にあそび喜ばれました。又地域のバザー(6/25)にも参加し、一緒に地域を盛り上げることができました。 	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>336,722円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>110,137円</td> </tr> <tr> <td>(労力換算額)</td> <td>548,500円</td> </tr> <tr> <td>負担金</td> <td>226,585円</td> </tr> </table>	事業費	336,722円	自己資金	110,137円	(労力換算額)	548,500円	負担金	226,585円
事業費	336,722円								
自己資金	110,137円								
(労力換算額)	548,500円								
負担金	226,585円								

平成23年度の成果

- 予定した事業は、ほぼ実施することができ(東日本大震災の関係で自粛した、桜まつりを除き)、地域の活性化にも貢献できたとおもいます。「六実っ子まつり」や「学校で開催したこま講習会」は、地域のボランティア団体、子供の父兄の方との共同で集客した結果、予想以上に集客することができ大いに盛り上がりましたが、単独開催の昔あそび大会に集客が少なかったのが残念です。集客方法や手段に工夫が必要であると感じています。
- 取り組んだ課題の現状については、子供達から、朝のあいさつ、帰りの挨拶が聞けるようになり、活動しているものにとっては大変うれしい気持ちでいっぱいです。子供たちがお父さんお母さんと一緒に遊んでいる姿や、お爺ちゃんやお婆ちゃんと一緒にきて遊んでいる姿をみると、やっていることは間違っていないと感じます。しかしながらまだ多くの人と一緒にやるところまでには至っていない。地道に活動し、広めていくことが必要だとおもいます。

【協働事業者紹介】

「昔のあそびと遊ぼう会」

代表 : しろいし やとみ 彌登美

住所 : 〒270-2204 松戸市六実2-52-10

TEL : 047-387-1522 FAX : 047-387-1522

e-mail : yatomi@mtg.biglobe.ne.jp

《問合せ先》 (連絡方法(電話番号など)、連絡者名をご記入ください。)

協働事業

ユースボランティア育成を通じた 子ども地域活動支援モデル事業	協働事業者	特定非営利活動法人こぱていー 子ども参画イニシアティブ
	事業担当課	青少年課

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

＜課題＞松戸市内では、子どもの地域活動の担い手が不足し、子ども会活動など地域活動が停滞しています。地域活動のひとつの場である、市内子ども会の加入率は平成20年度で25%を割り、年々低下する中、平成22年度にNPO法人こぱていと松戸市・青少年課が協働事業にて実施したアンケート・ヒアリング結果から、「役員を決めるのが大変」「大人が固定化してしまい、保護者の入れ替わりがない」「子どもの加入が少なく、イベントが実施できない」などの課題が浮き彫りとなり、子どものあそび・コミュニティをサポートする事業の必要性がより明確化されました。

＜取組＞本事業では、下記3点を目的に設定しました。

- ・10代後半から20代を目安とした若者を、ユースボランティアとして育成
- ・ユースボランティアが子ども会の活動に参画し、地域活動の負担を軽減する
- ・スキルをもったユースボランティアの参画によって、小学生の体験活動を豊かにする

子どもたちの行動範囲のなかで年齢の離れた子ども同士・子ども－若者の交流の場である子ども会を体験提供の場とし、ユースボランティアが子ども会の活動に参画します。ユースボランティアの活躍を通じて、地域活動の負担を軽減するとともに、親世代と共に協力することでより魅力的な社会体験を主に小学生世代の松戸市内の子どもたちに提供することに成功しました。

事業費	200,202円
自己資金	69,215円
(労力換算額)	377,000円
負担金	130,987円

平成23年度事業の成果

本年度の協働事業として「地域イベント（夏祭り）へ、ユースボランティアと子どもたちが共に出店」「子ども会の定例イベントをユースボランティアの個性を生かして活性化」をモデルケースとして実施、前年度の協働事業から一歩踏み込んだ、ユースボランティアが子どもたち・保護者と中期的な活動を地域で取り組むモデルケースを構築できた。特に、夏祭り出店では、子ども会のような地域的基盤（『ご近所』の知り合い）にユースボランティアが何週間にも渡ってひとつの活動を作り上げた。この活動の中で、互いの名前を覚え、役割を分担できる関係性＝社会性を子ども～20代双方が獲得することができ、地域にとっても新たな価値が生まれることが実証された。



【協働事業者紹介】

NPO法人こぱていー子ども参画イニシアティブは、子どもたち自身の「やりたい」という想いを、主に10代・20代のユースが一緒になって実現する場を、地域社会に築くべく活動しています。

協働事業に限らず、子ども会をはじめ、子どもたちと楽しいイベントを作りたい、企画アイデアに困っているなどあれば、是非ご連絡・ご相談ください。

《問合せ先》 office@copatee.net / 電話 047-386-1666 / FAX 386-1639 (担当：小熊)

「宇宙の約束」上映と 山元加津子氏講演会	団体名	まつど「1/4の奇跡」 上映実行委員会
---------------------------------	-----	------------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

◆ 映画上映会・講演会 ◆

前年度に小金市民センターで、ドキュメンタリー映画「1/4の奇跡」上映会を行い、命のつながり、生かされている喜びを、参加者と分かち合いました。

今年度は、前年度に培った人と人とのつながりを更に広げていくため、前年度上映した「1/4の奇跡」を再上映するほか、この映画の第2弾となる「宇宙の約束」を上映し、また両映画の主人公である特別支援学校教諭の山元加津子氏からもお話を伺いました。

◆ 交流会・学習会 ◆

- 4月24日(日) 17:30~19:00 松戸市民会館 301 会議室
- 5月22日(日) 10:00~12:00 松戸市民劇場 第3 会議室
- 2月19日(日) 10:00~12:00 稔台市民センター第4 会議室

事業費	397,741 円
自己資金	297,741 円
助成金	100,000 円

平成23年度事業の成果

◆ 映画上映会・講演会 ◆

いじめ、虐待、暴力、不和、自殺など、生きていることが辛い、楽しくないという方たちが救われ、生きていく活力や欲求を取り戻す地域作りをしていきたいと考え、実行しました。

隣近所・地域の交流・関わり合いが薄くなったことで、命の尊厳や「違いがあって当たり前」であることが分かりづらくなっているのではないかと、この映画の上映を行うことで、それが分かり易くなると考えました。映画に登場してくる雪絵ちゃんの願い「みんな違うように生まれてきて、病気も障がいも大切なんだという事を、世界中の皆が知っている世の中にして。」ということの実現の一端を担う事が出来たと思います。参加人数は会場定員いっぱいの150名でした。

尚、3月11日の東日本大震災から1か月半という日程でしたので、映画音楽を作曲演奏している盲目のバイオリニスト穴澤雄介氏も来場、短時間のチャリティコンサートも行う事が出来、来場者には大変好評でした。

◆ 交流会・学習会 ◆

3回の交流会・学習会で、延べ50人の参加を得て、「違いがあって当たり前」、ひとりひとりの存在によって、この世が作られていて、次の命、世界をつくっていくのだということを確認できました。そして、ひとりひとりの持ち味を生かして、やりたいことを実現していけるように、お互いに助け合う行動が生まれました。

【事業者紹介】

私たちのグループは、主に松戸市在住のメンバーから構成されています。映画上映や参加型・体験型の研修会などを通し、分かりやすく、命の大切さ、不思議、尊さを感じる機会を作っていきます。

そして、一人ひとりが、松戸市に住んでよかったと感じ、人と繋がり、楽しく地域社会を作っていこうとする人が増えることを趣旨として活動しています。

《問合せ先》 まつど「1/4の奇跡」上映実行委員会

代表：橋本 裕子 (TEL・FAX) 047-348-7454 hashi01@ka3.koalanet.ne.jp

<p>「AEDの正しい使用法を広めたい」 事業</p>	<p>団体名</p>	<p>デフィブリーるの会</p>
---------------------------------	------------	------------------

【事業内容】

<p>平成23年度事業の取り組み</p>	<p>事業費 235,074円</p>
<p>1、AEDを知って貰う活動</p>	<p>自己資金 135,074円</p>
<p>①聖徳大学 楽習フェア参加</p>	<p>助成金 100,000円</p>

- ②松戸市 LET'S 体験ボランティア受入れ団体として参加
- ③献灯祭り参加
- ④自衛隊（元山）祭り参加
- ⑤栄幼稚園バザーで体験コーナー
- ⑥市内小学校家庭教育学級でのカリキュラム化促進
- 2、AEDの正しい使い方を広める活動
- ①常盤第2小、相模台小、北部小「家庭教育学級」体験会開催
- ②非医療者に対するAED普及啓発シンポジウム参加
- ③「いぶきの広場」バザーにて体験コーナー開催
- ④サッカー松田選手事故に伴い、キックボクシングジム「ルーツ」にてAED講習会
- ⑤松戸市NPO見本市 参加（キャラバン見本市3か所を含む）
- ⑥旭神経内科病院にてAED講習会開催 50名参加

平成23年度事業の成果

- ①幼稚園、小学生にアピールする事や、PTAでの普及啓蒙活動は進んでいる。
問題はPTA「家庭教育学級」の実例で紹介はされるが講座の選定は各学校に任せられ「共通のカリキュラム」にならない。個々の学校PTAの理解を得る必要がある。
- ②助成事業に採択以前だとチャンスがなかったキックボクシングジムや、重度のハンデキャッパー施設「いぶきの広場」、聖徳大学からの要請で体験会を開催できた。良い事例となった。
- ③献灯祭り参加の道が開けた。
- ④医療機関内の内部講習会に要請を得たが貴重な事例となった。

【事業者紹介】

会の名称；デフィブリーるの会（自動体外式除細動器を普及する会）
 ※除細動器(defibrillator＝電気ショックを与える医療機器)

発 足；平成16年11月1日

活 動；初期＝AEDの設置促進
 現在＝AED啓蒙啓蒙、使用講習、初期救急講習のためAEDの出前講習会開催

《問合せ先》住所 270-0021
 千葉県松戸市小金原4-34-18
 電話；047-343-0808 FAX；047-348-3876
 HP；defibrill.web.fc.com/
 BLOG；defibrillblog14.fc2.com/

<p>「紙敷 石みやの森」保全育成事業</p>	<p>団体名</p>	<p>松戸里やま応援団 「七喜の会」</p>
--------------------------------	------------	------------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

★基本方針

23年度中に市民が散策できる「健康と癒しの森」として整備する。

事業費	151,220円
自己資金	51,220円
助成金	100,000円

★具体的活動

- ①定例活動の実施 毎月 第一火曜日 第二木曜日 第三土曜日。
- ②基本方針に沿った森の目標林型と利用目的に沿った整備実施。
- ③森の植生調査及び植生草本作成、小動物や鳥の生態調査。
- ④枯れ死、折損倒壊木の伐採間伐、下枝の枝打ち、根笹などの処理。
- ⑤持ち出さない、持ち込まないを原則に伐採枝葉の「バイオレスト」処理と堆肥化及び昆虫孵化。
- ⑥森の外周路の整備「竹垣づくり・ごみ投棄防止啓蒙標識立て・保全活動表示・市道整備」など。
- ⑦会員の保全作業の技能及び知識のレベルアップ講座、講習会の開催、参加。
- ⑧市民共有の貴重な財産である森の保全活動を理解して頂くため「散策会」を開催した。

平成23年度事業の成果

- ①定例活動の実施による森内及び外周路の整備。 活動回数31回 延べ参加人員223人/年
- ②9月に発生した台風19号により倒壊折損したコナラなどの処理では里やま応援団会員の支援を得て延べ三ヶ月を要した。
- ③森の植生調査による樹種分類表作成。 常緑樹 26種 / 落葉樹 35種 計 61種
- ④千葉大学園芸学部緑地環境学科緑地生態学研究室による植生調査及び土壌微生物調査が行われ、本森の形成や樹種、土壌中の種子、蘚苔類などが判明、野馬除け土手や石みや様などから推定していた森の歴史が解明された。
- ⑤森の外周路市道側に竹垣を配し景観の向上を図った。23年度のゴミ投棄は一回一箇所のみと前年に比して大きく改善した。市立松戸高校野球部へも森の環境保全への協力を依頼した。
- ⑥工事残土や石塊により荒れた市道が松戸市道路維持課により整備舗装された。永年獣道然とし足下危険だった市道の改善により散歩ルートとして多くの市民が活用するようになった。
- ⑦会員の保全技能向上のため里やま応援団主催のステップアップ講座を本森で2回開催した。
- ⑧森入口に森と会の標識銘板と掲示板を設置して会と里やま応援団の活動を紹介した。道の整備に合わせて散策する方が増え、標識に立ち止まり関心を寄せる方が多くなった。
- ⑨初めての「散策会」を開催、生憎の降雨の中を親子連れやご夫妻など12名が来森戴いた。
- ⑩散策会に際して近隣の市松高校、有料老人ホーム、保育園などに伺い活動を紹介した。次年度はこうした諸団体との相互連携を図り保全活動の輪を広げていく。

【事業者紹介】

私たち「七喜の会」は市みどりと花の課が主催する松戸里やまボランティア入門講座に参加した仲間が、都市部に残る貴重な森を「市民の健康と癒しの空間」として保存し永く次世代へ残したいと考え結成しました。私たちの「紙敷石みやの森」には森の歴史を物語る、延宝四年建立の石みや様が鎮座し野馬除け土手が残ります。発足から二年余の保全活動により埋設堆積ゴミの回収や森周囲の環境整備が進み散策する市民の方も多くなりました。市民共有の財産である森を守る活動の成果と喜んでいきます。

《問合せ先》

「七喜の会」副代表 山下 烈 [たけし] TEL 090-5317-4178 e-mail t-y44410@ka7.koalanet.ne.jp

<p>芸術による認知症予防及び進行抑制の為の事業と認知症高齢者の介護者へ支援事業</p>	<p>団体名</p>	<p>クリニカルアートをひろげる会</p>
---	------------	-----------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	205,000円
自己資金	105,000円
助成金	100,000円

①「認知症高齢者の介護者 及び 認知症の方」の合同ワークショップ

- 8月7日 市内有料老人ホーム、デイサービスフロアで実施
- 12月4日 市内特別養護老人ホーム デイサービスフロアで実施（常盤平地域包括センターと共催）
- 2月5日 市内有料老人ホーム、デイサービスフロアで実施

(総参加者数 19名)

②認知症予防の為のワークショップ

- 毎月第2土曜日実施 会場 ゆうまつど、市民会館、市民劇場など公共施設
- 毎月第3木曜日実施 会場 市内民間診療所会議室

(総参加者数 154名)



平成23年度事業の成果

①「認知症高齢者の介護者 及び 認知症の方」の合同ワークショップ

- ・「在宅の認知症高齢者」とのワークショップが実現できた。
- ・認知症の方本人だけでなく、常に介護をされる家族等介護者の方にも同時にワークショップを受けていただくことを実現できた。終了後は互いに笑顔で出来あがった作品を誉め合う姿も見られ、参加して良かった、ストレス発散になったとの回答を介護者全員からいただいた。



② 認知症予防の為のワークショップ（毎月第2土曜日・第3木曜日実施）

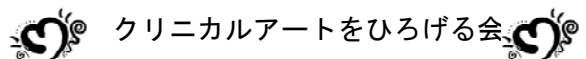
- ・毎月概ね10名以上の参加者が、楽しみにしていただけの状況になってきた。この日を心待ちにして生きがいのように感じてくださる方もおり、いきいきした老後生きがい作りに貢献できた。
- ・本格的な画材を使用し、専門的な美術の技法も取り入れての取り組みなので、芸術的文化的な空間で時間を有効に過ごす事が出来て、もっといろいろな制作をやってみたいという意欲を引き出せた。
- ・参加者同士で会話しながら制作をしていき、夏休みなどはお孫さんも参加されるなど世代間交流もあり、高齢者と健常者や家族も一緒にコミュニケーションをはかれた。

【事業者紹介】

●高齢者の認知症予防や認知症進行抑制の為の療法としてのアートをはじめ、子どもや一般成人の為のワークショップも行っていきます。今後は子どもの為の活動もひろげていきます。

●安全性を重視しつつ、プロの美術家が用いる良質な画材を使用しています。専門的な技をふんだんに取り入れつつも、どなたでも楽しめるような制作方法を提供。参加者には本格的アート作品を制作していただき、楽しんでいただいております。

《問合せ先》



クリニカルアートをひろげる会

代表 村井 眞理

事務所 松戸市高塚新田123-2 2-2-104

電話 090-8859-1654

e-mail spzz7b89@swan.ocn.ne.jp

H P <http://www.project-s.net/clinical-art/>

ブログ <http://blog.livedoor.jp/clinicalart/>

<p>健康な心を育む勇気づけの対応</p>	<p>団体名</p>	<p>松戸市男女共同参画推進グループ ファミリーサポート・勇気づけ</p>
------------------------------	------------	---

【事業内容】

<p>平成23年度事業の取り組み</p> <p>1. 勇気づけの対応をお伝えする講演会の実施・・・3回</p>	<p>事業費 202,500円</p>
<p>2. 「勇気づけ親子関係実践セミナー」の実施・・・29回 (平日2回、日曜1回)</p>	<p>自己資金 102,500円</p>
<p>3. 10月 国立女性教育会館において行われたNWEC2011フォーラム 「勇気づけの親子関係実践セミナー」は 精神病理の予防策であると同時に 男女共同参画を実現する態度をも実現するものであるという内容のワークショップを行う</p>	<p>助成金 100,000円</p>
<p>4. 10月 第2回東葛エリア不登校支援団体交流会において 「勇気づけの親子関係実践セミナー」について事例提供を行う</p>	
<p>-----</p>	
<p>平成23年度事業の成果</p>	
<p>1. 不登校生の居場所「ひだまり」の世話人の方が受講して下さい、「勇気づけの対応」を学ぶことは「信じて任せて待つ」という親の態度を具体的に示すものであることを認めて下さる。その方が設立の一員である我孫子市の不登校の親の会「青空の会」で平成24年度4月から「勇気づけの親子関係実践セミナー」を開催して下さいになった。</p>	
<p>2. 平成23年10月に国立女性教育会館で行われた「NWECフォーラム2011」に於いてこの事業と内容を紹介するワークショップを行い、参加者の方々に関心を示して頂けた。</p>	
<p>3. 平成23年10月、松戸市女性センターで行われた「第2回東葛エリア不登校支援団体交流会」において「勇気づけの親子関係実践セミナー」について事例提供させて頂いた。</p>	
<p>4. 「ゆうまつどフェスタ2011」に於いて房総の会主催の講演会で「勇気づけの対応」について紹介させて頂いた。元教師の方々に「勇気づけの対応を現職の頃に知っていたかった。」と、機会ある度に伝えて頂けた。</p>	

【事業者紹介】

「松戸市男女共同参画推進グループ：ファミリーサポート・勇気づけ」は 一人でも多くの方々の役に立ちたいという気持ちで 様々なセミナーを行っております。それぞれのセミナーの担当者は そのセミナー担当の講師です。お気軽にお問合わせ下さい。

《問合せ先》

- ・就労支援セミナー：古宮 保子：090-9963-8980
- ・美肌セミナー：数又 美千代：090-9804-3248
- ・勇気づけの親子関係実践セミナー：福田 育子：047-701-7668

市民活動助成事業

<p>五香、六実地区歴史再発見事業</p>	<p>団体名</p>	<p>香実会（こうみかい）</p>
------------------------------	------------	-------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

<p>事業費</p>	<p>117,922 円</p>
<p>自己資金</p>	<p>22,608 円</p>
<p>助成金</p>	<p>95,314 円</p>

【五香・六実地域】の活性化の一助になるものと思い事業を立ち上げ、香実会を創りました。

タイトル：活気あるまちづくりを目指します。

サブタイトル（三指針）

- 元気なまちづくり
- 心豊かなまちづくり
- 自慢できるまちづくり

発信：名所旧跡、文化財を地域住民の皆さんにお知らせし、さらに地域外の皆さんへ発信いたします。



（講演会風景）

案内人：文化財の地域をA,B,Cの3コースに分け、日程を決めガイドを行います。

平成23年度事業の成果

ガイドマップ（A4サイズパンフレットカラー版三折り）を作成

ガイドブック（A4サイズ小冊子カラー版8ページ）を作成

コース案内：各コースの募集と案内を行いました。

☆6月1日、10月23日ABコース、11月2日Cコース案内実施

講演会：（演題）五香六実の開拓時代から今日までについて（まちの成り立ち）

☆10月2日（日）六実市民センター実施

ワークショップ：連合町会、地域団体などと座談会を実施

【事業者紹介】

- 「五香・六実地区」歴史再発見案内人として設立しました。会員数現在21名
- 自分の住んでいる地域の事を知りたい方や、又その良さを地域外の多くの方へ情報発信致します。そしてこの地域に見学、観光にお越し頂く事で、地域の活性化に繋がります。我々案内人はその橋渡しを行います。
- 五香六実地区が好きで、歴史に興味ある人達の集まりです。
- 興味が御座いましたら、是非ご参加下さい。

《問合せ先》 香実会（こうみかい）

〒270-2203 松戸市六高台3-117-1

TEL&FAX 047-385-2719 連絡先 岩本 昌人

市民活動助成事業

Jキッズ子どもまつり事業	団体名	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会 Jワールド
---------------------	-----	-------------------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	127,164 円
自己資金	28,500 円
助成金	98,664 円

実施日：平成23年7月9日（土）

実施内容：新松戸市民センターにてJキッズの子ども達が考えた
ゲームや模擬店、Jレンジャーショーを開催した。

実施目的：最近、地域の子ども会がなくなりつつあり、子ども達が地域の方や、世代間での交流が少なくなっている。Jキッズ子どもまつりでは、地域間交流・世代間交流の場を提供し、地域の活性化と子ども達の健全な育成に貢献する。また、子ども達にとって、自分で考え、作り上げ、提供する過程を経る事で、さらなる自主性・積極性の育成につながる。



平成23年度事業の成果

- 150名の受益目標に対し、参加者数546名、そのうち受益者人数が285名と大幅に達成できた。理由として、協働推進課の協力により、新松戸市民センターを利用できたこと、チラシを小学校10校に配布できたことが大きかった。
- 地域の方や、中高大学生のボランティア参加があり、異年齢交流、世代間交流の場となった。
- 会場ひしめく大勢の方々が、楽しんでくれたことで、Jキッズの小学生が自分達の力でやりとげるという達成感を味わい、自信につながった。
- 中高大学生たちは、Jレンジャーショーのレベルアップのため、台本から練習までしっかりとやり、結果、地域でやっている他のイベントに参加することができ、地域との交流が広がっていった。

【事業者紹介】

Jキッズは、ボランティア活動を通し、子どもたちの思いやり・自主性を育てることを目標として活動しています。「自分で考え、自分でやる！」を合言葉に、月3回土曜日に行っています。

《問合せ先》 **特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド**
Jキッズ

住所：松戸市新松戸 4-257-1 ニューホームズ第1マンション1階

電話：047-344-0544（SRCビル内）

090-3575-7939(野中) / 090-9244-0382(桑島)



市民活動助成事業

生活に役立つ「暮らしとお金」の セミナーと相談会	団体名	松戸生活やくだちたい (msy)
-------------------------------------	-----	------------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

生活設計の三大要素は、「生きがい」「健康」「経済(家計)」と言われていますが、この「経済(家計) = 暮らしとお金」について、行政機関が実施するものを除き、中立的な立場からの啓発講座や安心して相談できる相談会が非常に少ない現状にあり、この状況を解消したいと思います。

そこで、「日常の家計管理」を切り口として中立的な立場からの啓発講座を開催し、安心して質問や相談できる相談会を開催することを計画しました。具体的には、資産・負債管理、老後の生活設計、年金・仕事と生活のバランス、医療・保険など病気・事故への備え、相続などについてセミナーと相談会を年間3回計画しました。

このセミナーと相談会に参加いただくことで、市民自らが考え・具体的に行動することへの支援となり、最終的に「暮らしとお金」の自己解決能力が向上した地域が期待できると思われました。

事業費	113,062円
自己資金	18,000円
助成金	95,062円

平成23年度事業の成果

1) セミナー・相談会を3回実施し、

セミナー 目標60人 114人

市内97/市外17、男35/女79、平均54才代 夫婦3組/子連れ2組

1回のセミナーで2.2コマの聴講があり、5点満点で4.3点の評価でした。

個別相談 目標30人 18人

相続、保険、投資に関する相談を受けている。相談者は回を追って増えている。

継続の参加者が40名おり、安心して聞ける・相談できる場となって来ています。

2) 事業費は、有料広告を止めて無料掲載紙の活用、インターネットおよび“はがき”での募集により費用節減に努めた結果、最終事業費は131千円で納めました。

<評価>

- ・参加者から” “よかった” “目からウロコ” の声があり自己解決力向上に役立っていると評価しています。
- ・特定の商品をお勧めすることは行ってません。中立的立場を確保しています。

【事業者紹介】

松戸生活やくだちたいは

松戸市で活躍するFP(ファイナンシャル・プランナー)が、自分達の知識・経験・技能を生かし、少しでも松戸市民のお役に立ちたいとの思いから平成21年に集まった10人のグループです。平成24年度もセミナーと相談会を年3回開催します。

問合せ先 tel&fax 047-341-3021 松戸生活やくだちたい 代表 広瀬 高志

e-mail msyakudachitai@xmail.plala.or.jp

ホームページ <http://www7.plala.or.jp/MSYakudachitai/>

Google

松戸生活やくだちたい

検索

市民活動助成事業

手と手で話そう Part2	団体名	NPO法人子どもっとまつど
----------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

I) 「こころ」を「からだ」で伝えよう—ワークショップ—
8月18日、8月25日 ふれあい22

講師 関内賢二氏（ろうあ協会手話対策部）

II) 「こころ」を「からだ」で伝えよう—手話劇にトライしよう—

9月11日、10月2日、10月16日、10月23日ふれあい22

講師 関内賢二氏（ろうあ協会手話対策部）

III) 手話劇「聴覚がい者の3・11」の発表

12月4日「おはなしの広場」青少年会館（松戸子どもの文化連絡会主催）

12月18日「クリスマス会」八ヶ崎市民センター（松戸市ろうあ協会主催）

1月9日人形劇「はこ」舞台挨拶 松戸市民劇場（子どもっとまつど主催）

3月10日「市民活動見本市」見本市実行委員会

●講座終了後、手話劇「聴覚障がい者の3・11」発表に向けての練習
参加した子どもは延べ78人。大人33人。スタッフ14人となった。

事業費	127,762円
自己資金	27,762円
助成金	100,000円

平成23年度事業の成果

- ・市内4か所のイベントで「聴覚障がい者の3・11」を発表することが出来た。
- ・ろうあ協会の「クリスマス会」に招待され、ろうあ協会との関係も深まった。当日のアンケートからは「子どもたちの手話劇が感動した」との声が一番多くあったと後日報告を受けた。
- ・途中で難聴者家族が新たに参加してくれメンバーが増えた。
- ・1月に実施された舞台公演は、出演者、来場者ともに聴覚障がい者がいる中で手話を使って挨拶をしたことが、子どもたちの自信につながった。
- ・劇の練習を11回重ねる中で子どもたちの団結と意欲が培われ、子どもたちから「手話の本を買ったよ」「もっと手話を覚えたい」「手話の劇で全国をまわりたい」などの声が聞かれた。
- ・手話劇の発表会場では「耳の聞こえない人の気持ちがわかった」「障がい者との関わりある環境で子育てがしたい」との声も聞くことが出来た。

【事業者紹介】

- ① 子育て支援事業（「おやこの広場・るーぶる」）通年事業
- ② 子どもの体験事業
（「子ども自然アート体験教室」「陶芸体験教室」「障害者との交流体験教室」）
- ③ 舞台鑑賞・ワークショップ事業
（市民会館センター、市民会館ホールなどでの舞台鑑賞及びワークショップ）
- ④ 三世代交流事業
- ⑤ （「子どもの育ちを地域で支える学び遊び塾」）
- ⑥ 地域との連携事業
（「宿題寺子屋」人材パワーアップセンターとの協働事業）

《問合せ先》〒271-0051 松戸市馬橋2855 マンションニュー松戸407号室

TEL 047-344-2272 npo-mkg@cd.wakwak.com

市民活動助成事業

八ヶ崎の森再生整備事業	団体名	松戸里やま応援団 一起の会
--------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

平成20年末斜面林の大半が伐採された八ヶ崎の森の再生整備事業は、平成22年度に引き続き市民活動助成事業の指定を受け、今期は再生整備の仕上げの年として取り組んだ。植栽と遊歩道設置のための

「地ごしらえ」は5月で完了し植樹イベントは6月(38名参加)と3月(20名参加)に2回開催した。年間を通して植樹した苗木へは水遣りや除草の繰り返しで、養生は大変であったが順調に育っている。また近隣保育園児を迎え5月と10月に延べ77名での植樹手伝いをしてもらった。その他、森の中で里やま応援団グループの講座実施(7月)や緑ネット観察会の視察(12月、70名の市民参加)を受け入れた。

事業費	173,683円
自己資金	73,683円
助成金	100,000円

平成23年度事業の成果

平成21年策定の『再生整備計画』にもとづき ①地ごしらえ ②植栽計画 ③遊歩道設置を実施し、平成23年度ではほぼ予定通り修了することが出来た。

孤立した森から『地域に親しまれる森への再生』をめざして整備を進めてきたが、植樹イベントを中心に多くの市民に参加してもらい、地域の方々の関心を高めたことは成果だった。

また、この森は複数の地権者で構成され、斜面林を分断する形で「立入りを認められない土地」があり再生整備のネックであったが、2月市当局のご助力とボランティア活動が信頼を受け、

「立入りと整備保全活動が可能」となった。これにより『再生整備計画』を再度見直し、森全体を整備し「保全と有効活用」が出来るようになった。

【事業者紹介】

森林、竹林、里やまなどの整備、保全、活用に対するボランティア活動団体です。

発足から8年、「八ヶ崎の森」と上本郷「カンスケ緑地」を中心に整備管理活動を展開し、4年前から年2回近隣児童を招き、自然観察や森のなかで遊ぶイベントを実施してきました。

現在、平成20年末に破壊された八ヶ崎の森を、「地域に根付く森」に再生するために、市民参加型の再生整備事業を展開しています。整備活動は平成23年度で完成予定でしたが、森内の管理活動範囲の拡大により「再生整備計画」を見直し、森全体の整備と有効活用を図っていきます

《問合せ先》 連絡方法 一起の会代表 佐竹 道の 電話 342-2366

福祉のまちづくり推進のための シンポジウム・先進地見学事業	団体名	バリアフリーまつど市民会議
----------------------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

事業費	165,441円
自己資金	65,441円
助成金	100,000円

① シンポジウムの実施「防災とバリアフリー意見交換会」

～3・11の身近な体験から学ぶ～

3・11東日本大震災発生を受け、福祉のまちづくりのポイントを防災に絞った障がい者や高齢者、乳幼児、子育て世代など災害時要援護者が、3・11大震災時における自らの体験や行動を語り合うことで今後の防災への心構えや安全、安心へのアプローチにすべく意見交換をした。(参加者；41名)

② 先進地見学会の実施

～誰もが暮らしやすいまちづくり先進地交流と見学バスツアー in 越谷～

越谷市「誰もが暮らしやすいまちづくり実行委員会」との交流。避難所一泊体験の交流やユニバーサルデザイン施設見学。(参加者；31名 内車イス3名)

平成23年度事業の成果

東日本大地震が発生し松戸市でも震度5を経験したことで、テーマを防災や避難所に絞って「意見交換会」(シンポジウム)や「先進地見学バスツアー」(越谷市)を実施したが、これまでと違い参加者一人ひとりが、身近なリアルな問題として捉え、自分たちの地域を考える機会になった。

さらに障害のある人だけでなく、お年寄りや子ども達に焦点を当てた福祉のまちづくりのあり方やその普及、啓発に成果をあげることができ、ボランティアの育成やネットワークの拡大にもつながった。また、市の担当課に報告を行った。

【事業者紹介】

バリアフリーまつど市民会議

《問合せ先》 ☎&Fax 047-345-8215 (代表 元山幹雄)
 ☎&Fax 047-385-6437 (事務局長 室谷 勉)
 Mail rakusui@muse.ocn.ne.jp (担当 瀧 宏)

<p>不登校の理解を深める本の作成と配布事業</p>	<p>団体名</p>	<p>不登校問題を考える東葛の会 「ひだまり」</p>
-----------------------------------	------------	---------------------------------

【事業内容】

<p>平成23年度事業の取り組み</p> <p>4月27日、会のニュースで、不登校体験の原稿募集のお知らせをおこなった。</p> <p>6月25日、「不登校を理解する講演会」（講師・穂積妙子氏・つくば子どもと教育相談センター代表）を実施した。本の作成と配布の趣旨・原稿募集についてお話した。</p> <p>11月25日、6回の編集会議を積み重ね、『不登校という宝物』の本が完成した。</p> <p>11月26日、「不登校を理解する講演会」（講師・末永 清氏・聖徳大学教授）を実施し、本の紹介もおこなった。</p> <p>11月29日～ 完成した本を配布した。松戸市教育研究所を通し市内の小中学校とスクールカウンセラー、ふれあい教室、市PTA連絡協議会、市立図書館、千葉中央図書館、相談機関、相談員、子どもと親のサポートセンター、保健所、社会福祉協議会、近隣の大学の研究室、地域の親の会、その他に。</p> <p>1月20日、松戸民生委員児童部会で『ひだまり』の活動と本の紹介をおこなった。</p> <p>1月30日、毎日新聞千葉版に、本の紹介が掲載された。</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>233,410円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>133,410円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000円</td> </tr> </table>	事業費	233,410円	自己資金	133,410円	助成金	100,000円
事業費	233,410円						
自己資金	133,410円						
助成金	100,000円						

平成23年度事業の成果

- 1、原稿を募集したところ、子ども（若者）から8編、親から12編、計20編が集まり、『不登校という宝物』という題で、本を完成させることが出来た。
- 2、市内の小中学校をはじめ、上記にのべたように、この本を配布することが出来た。
- 3、学校の先生方やスクールカウンセラー、相談機関で相談業務にあたっていらっしゃる方々から「たいへん参考になった」「子どもや親の様々な心理・内面・様子が伝わって来た」などの感想が寄せられ、好評だった。
- 4、お子さんが不登校で悩んでいる親から「子どもの内面やどう接したらいいか参考になった」「苦しんでいるのは自分だけではないのだと思った」など感想が寄せられ、相談・面談・親の会参加も増えた。「孤立からつながりへ」という事業課題に迫れたのではないかな。
- 5、地域の方々からも「こんなにも子どもや親が苦しんでいるとは思っていなかった」「ひとごとでないと思った」「目からウロコが落ちる思いだった」「多くの人に読んで欲しい」という声が寄せられている。

【事業者紹介】

不登校問題を考える東葛の会『ひだまり』 代表 鹿又 克之

- ◎ 不登校の子どもを持つ親たちが集まり交流会をしています。
- ◎ 電話相談や面談をおこなっています。
- ◎ 子どもの居場所『ひだまり』の運営をしています。子どもと学生が楽しく交流し、元気を回復し、学校・社会・地域に進んでいます。

《問合せ先》 電話/FAX 047-361-8757

271-0063 松戸市北松戸2-3-6 第1六協ビル2階

市民活動助成事業

まちづくりコラボサロン	団体名	まつどサロンネットワーク
--------------------	-----	--------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

①サロン開催

サロンを15回開催（場所は女性センター）、そのうちゲストスピーカーを招いてのサロンは3回行った。1回目は5月に福島から松戸に避難されている方々を招いて、現状の生活や避難したときの状況などを聴いた。2回目は10月に自然エネルギーについての話をサロンメンバーの自然エネルギー協会の方に話してもらい意見交換をした。3回目には、これから多くのシニアを活動に取り込み、異世代間のつながりの方法を模索する手掛かりとして、ネットツールを考えようということでフェイスブックツイッターやSNSなどのレクチャーを若い世代に頼んだ。

②イベント開催

2月にNPO法人ハンズオン埼玉の西川正さんを招いて「人を呼び込む『仕掛けづくり』発想講座」をおこなった。

事業費	132,400円
自己資金	32,400円
助成金	100,000円

平成23年度事業の成果

もともとサロンの目標は2つあり、

- ①より多く幅広い層の人をとりこんで、「自分にできること」を地域で挑戦する人が増えること
 - ②人が会うことで新しい活動が生まれること、ネットワークを広げる場となること
- 結果として事業の企画を考えていた際、数値として挙げていたひろげる人数の数は結果として達成できなかった。その理由は

- ①震災によって自分の生活に多くの人に影響が出て、多くの人が時間的に市民活動の方に目を向ける時間や余裕がなくなった。これまで参加してきたメンバーにもその影響が出て、参加人数も広がりには少なくなった。
- ②震災の影響による社会的な混乱の中で、社会的な価値観に変化があったこと。

ただ数値の達成こそできなかったが、自分にできることを見つけ、それを活かして「新しい活動」を生むこととするこのサロンの目標については大きな成果があった。

サロンに「農業ボランティア」のシステム作りに関心を持つメンバーが参加し、サロンの中からその話に関心を持って、仕組み作り着手することとなったことである。結果的にこのサロンの中から「松戸農業サポート協議会」が成立することとなった。

想定外のことであったが広がりではなく、サロン1年目で培った密な人間関係、信頼関係が土台となっていてできていたことが功を奏し、新しい提案が持ち込まれたときに、それを基盤として新しい活動の立ち上げを可能とすることとなったのは予想外ではあったが、大きな成果と言ってよい。

【事業者紹介】

【まつどサロンネットワーク】

自分にできることで松戸をよくしていきたいと考える人たちの集まりです。不定期ですが、ほとんど松戸駅近くの公共施設でサロンの集まりを持っています。どなたでも、参加できます。お気軽にご連絡ください。

〈問い合わせ先〉 メール/ machidukurikorabo@yahoo.co.jp

電話/ 090-9857-9158 桑田

市民活動助成事業

若者と協働の森づくり	団体名	松戸里やま応援団 三樹の会
-------------------	-----	---------------

【事業内容】

平成23年度事業の取り組み

- 1) 金ケ作小学校の自然観察、環境教育、森の遊び受け入れやイベントの開催
- 2) 金ケ作町会主催の「金ケ作まつり」の竹細工コーナーを担当地域住民との交流
- 3) ミニ門松作りのイベント開催で地域の人達の参加を呼びかける。
- 4) 過去4年間のLet's ボランティア体験者に呼掛け、「三樹の会ジュニア隊」を募る。
 - ・ 第1土曜日の定例活動および森のイベントを行う。
 - ・ 定例活動は、アダルト会員と一緒に森の保全作業を行う
落葉かき、下草刈り、枯れ木（竹）、不要木（竹）の処理等
- 5) サポートセンター主催のLet's 体験を2日間受入れる。

事業費	113,395 円
自己資金	13,395 円
助成金	100,000 円

平成23年度事業の成果

- 1) 5月～3月の間 ジュニア会員が10回の森の保全作業をアダルト会員と共に行った。
部活、塾等の関係で、出席率が40%と低かった。出席率の向上が課題である。
- 2) 6/26 金ケ作町会主催の「金ケ作まつり」で竹細工コーナーを担当し、約50名の親子に竹とんぼ竹箸・花器・すだれ等、森の材料を利用した工作を教えると共に、森の大切さの理解を得た
- 3) 7/25 8/6の2日間 合計23名の中高生をLet's 体験で受入れた。
森の保全作業として竹の伐採、下草刈りおよび竹炭用材料作りの竹割りを体験した。
- 4) 9/26 金ケ作小5年生40名、先生2名を受入れ、森の手売れ体験および自然観察を行った。
- 5) 12/19 金ケ作小5年生44名、先生2名を受入れ、竹細工・井戸の水汲み体験・竹炭の窯だし体験を行った。
- 6) 12/26 ミニ門松作り
地域の人達およびジュニア会員に呼掛け、13名が参加があり、地域との交流が図れた。
今回の助成事業により、若者と協働の森作りがスタートすることが出来た。活動の質の向上、出席率アップの課題があるが今後も取り組んで行きたい。

【事業者紹介】

平成17年度「里やまボランティア入門講座」を受講したメンバーが集まって立上げた団体で、年々減少して行く市内の緑の保全を目的に設立しました。

活動は7年目を迎え、会員は28人に増え、民有林2カ所で保全活動のお手伝いをしています。活動は月3回の定例活動である森の清掃・下草刈りの保全作業の他に緑と花のフェスティバルおよび地域のイベントに出店し森の恵みを利用した竹炭、竹細工品、木工品を廉価で販売し、市民に喜ばれると同時に活動資金を得ています。

《問合せ先》松戸里やま応援団「三期の会」代表：末廣英智 携帯：090-1612-1440

(平成24年度事業の取り組み)

市民活動助成事業

事業名50音順

事業名	団体名	頁
園芸活動を基盤とした高齢者宅での地域福祉活動及びマニュアル作成事業	HGC(Human Green Coordinator)	P.28
成年後見制度の普及啓発と市民後見人の活用促進事業	NPO法人東葛市民後見人の会	P.29
総合科学教室事業	エデンの園科学教室	P.30
難聴者にやさしいまちをつくろう！事業	NPO法人ユニバーサル・サウンドデザイン	P.31
ゆいの花音楽会事業	松戸ウインドアンサンブル	P.32

園芸活動を基盤とした 高齢者宅での地域福祉活動 及びマニュアル作成事業	団体名	HGC(Human Green Coordinator)
--	-----	------------------------------

【内容】

平成24年度事業の取り組み

**園芸活動を基盤とした
高齢者宅での地域福祉活動及びマニュアル作成事業**

事業費	125,000円
自己資金	55,000円
助成金	70,000円

	地域福祉活動	マニュアル作成作業
4～6月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の広報活動 ・地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性の確認 (プロセスの確認と進めるべき情報の整理)
7～9月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の広報活動 ・地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の集約 (依頼主の生活環境の把握・依頼主のニーズの把握・依頼主のサポート体制の把握)
10～12月	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の広報イベント開催 ・地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の集約 (事前に把握すべき情報整理・リスクマネジメント対策) ・マニュアルの改善案作成
1～3月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉活動 (樹木剪定作業・除草作業・苗の植え付け・栽培相談・交流時間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの完成 ・報告書の完成

平成24年度事業の目標

- 松戸地区高齢者住宅：新規開拓10件訪問・庭管理作業の提供
→このうち活動の継続依頼をされる割合を**50%**目標とし、
のべ**25回**の訪問を目指す。



4月現在、電話問い合わせ5件、訪問3件、訪問回数のべ4回

【事業者紹介】

- 千葉大学園芸学研究科・園芸学部の学生で構成している学生団体です。
- みどりを生かしたひととのコミュニケーションを促進するとともに、自らの専門分野の知識を深めることを目的としています。
- 環境教育、園芸療法などを通し、幅広い世代の方と交流しています。

《問い合わせ先》

HGC

(Human Green Coordinator)

代表 本田 ともみ

連絡先 〒271-8510 松戸市松戸648番地

千葉大学大学院 園芸学研究科 岩崎研究室

電話 080-4818-4989

E-mail vctomousagi@yahoo.co.jp



市民活動助成事業

<p>成年後見制度の普及啓発と 市民後見人の活用促進事業</p>	<p>団体名</p>	<p>NPO 法人 東葛市民後見人の会</p>
---	------------	-------------------------

【事業内容】

<p>平成24年度事業の取り組み</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>141,200 円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>41,200 円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000 円</td> </tr> </table>	事業費	141,200 円	自己資金	41,200 円	助成金	100,000 円
事業費	141,200 円						
自己資金	41,200 円						
助成金	100,000 円						
<p>① 超高齢化社会を迎え、判断能力の衰えた認知高齢者が増加して来ている。</p> <p>② 社会情勢の変化に伴い、家族形態も核家族化が進展し、老人世帯、独居老人世帯が増加する等変わってきている。</p> <p>このような状況下、判断能力の低下に伴う認知症高齢者が詐欺等の被害に遭遇する危険が増加してきている。当会は「認知症高齢者を支える成年後見制度」を多くの人に知ってもらい、支援を必要とする人を市民が支える活動を行い、地域の問題を解決していきたい。</p> <p>取り組み内容</p> <p>① 専門家を講師とした成年後見制度（任意・法定後見）の理解と活用の為の講習会を地域の公的施設にて開催し、制度の周知と利用促進を図る。</p> <p>② 上記に併せ、マンション、町会等の小規模施設で、よりきめ細かい勉強会等を出前形式にて開催する。</p> <p>③ 講習会・勉強会にて後見上の「悩み事」を聞く、身近で親身になった相談会を設け、必要に応じ後見受任に繋げる。後見事案に応じ、専門職を活用する。</p>							

平成24年度事業の目標

- ① 地域における講習会、勉強会等を開催し、参加者を多数募る。
- ② 認知高齢者等の成年後見制度に関する相談を受け、後見受任へと繋げ増加を図っていく。

【事業者紹介】

当会は千葉家庭裁判所松戸支部管内の東葛6市（我孫子市、柏市、流山市、野田市、松戸市、鎌ヶ谷市）において、「東京大学市民後見支援室との連携」、行政などの「公的関与」、「地域密着」の3原則のもとに、次の活動を展開しています。

- ① 成年後見制度の普及・啓発事業
- ② 成年後見制度の担い手となる市民後見人の養成事業
- ③ 成年後見制度に関する相談事業
- ④ 成年後見制度に関する後見受任事業

《問合せ先》 NPO法人 東葛市民後見人の会 藤本

電話：047-342-3703 メール：fujimoto513@nifty.com

市民活動助成事業

総合科学教室事業	団体名	エデンの園科学教室
-----------------	-----	-----------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

普段不思議に感じた事を科学的に判り易く具体例で示し、理解を深めてもらうために子供向け科学工作教室に取り組んでいきます。このことが [①子供に科学に興味を持ってもらう ②世代間のコミュニケーションの創出] の2つの地域課題の解決につながると考えます。

[科学教室で工作するもの、または学んでもらう内容の一例]

- 光に関するもの : 万華鏡の制作、日光写真の撮影
- 電気に関するもの : モーターの制作、風力発電機の制作、ラジオの製作
- 圧力に関するもの : 浮沈子の制作、マグデブルクの半球の実験、減圧の体験
- ITに関するもの : パソコンを使い、撮影写真の編集やビデオ化を体験

事業費	180,000円
自己資金	80,000円
助成金	100,000円

平成24年度事業の目標

○達成目標

- ①科学教室開催回数 : 年10回 (前年までは年2~3回)
- ②児童参加者数 : 延べ200名以上
- ③科学が好き、または興味をもった子供達の数 : 延べ140名以上
(アンケートや発表会での把握による)

【事業者紹介】

子供対象の科学工作教室の開催を通じて科学に対する理解と興味を深めてもらう事、合わせて地域の子供と大人の世代間交流を図ることを目的とした団体です。現在松戸ニッセイエデンの園 (松戸市高塚新田) 入居者12名を中心に活動しています。

《問合せ先》〒270-2222

松戸市高塚新田123-1 松戸ニッセイエデンの園内
エデンの園科学教室 代表 山本 喬
E-mail sanponkyo@nifty.com

難聴者にやさしいまちを つくろう！事業	団体名	NPO法人 ユニバーサル・サウンドデザイン
--------------------------------	-----	--------------------------

【事業内容】

<p>平成24年度事業の取り組み</p> <p>☆私たちの団体の理事長および副理事長は難聴や音響技術に精通しています。また難聴に詳しい医学博士にも参加いただき活動を推進してまいります。</p> <p>(1) 「親子でつくろう！塩ビ管スピーカー」 <u>「聴こえに興味・関心」</u>をもっていただくために 親子でつくろう！塩ビ管スピーカーを実施し音の仕組みなどを理解していただきつつ音が聴こえないヒトがいるということをお伝えしていきたいと思ひます。</p> <p>(2) 「FAX 番号あると安心だね！大作戦」 <u>「聴こえに興味・関心」</u>をもっていただくために お店で配布されるチラシですがこちらに FAX をいただき聴覚障害者へのやさしいとりくみを告知していく松戸市内の商店街をボランティアさんと一緒にまわりチラシを配布する。</p> <p>(3) 「はじめての手話！目だけでコミュニケーションしてみよう！」 ・<u>「体験・体感」</u>していただく仕組み 聴覚障害者を講師としてお呼びしてカフェなどで気軽に手話に触れられるよう初心者向け手話体験ワークショップをおこないます。聴覚障害者とのコミュニケーションを体験してもらい目によるコミュニケーションの方法を体験してもらう」</p>	<table border="1"> <tr> <td>事業費</td> <td>233,360円</td> </tr> <tr> <td>自己資金</td> <td>133,360円</td> </tr> <tr> <td>助成金</td> <td>100,000円</td> </tr> </table>	事業費	233,360円	自己資金	133,360円	助成金	100,000円
事業費	233,360円						
自己資金	133,360円						
助成金	100,000円						

平成24年度事業の目標

- (1) 「親子でつくろう！塩ビ管スピーカー」
→3ヶ月に1度実施 = 4回 1回あたり15名の参加人数とし60人に提供
- (2) 「FAX 番号あると安心だね！大作戦」
→隔月実施 12か月× 隔月1回 = 6回 1回あたり200枚のチラシを配布するという
ことで1200人に告知
- (3) 「はじめての手話！目だけでコミュニケーションしてみよう！」
→3ヶ月に1度実施 = 4回 1回あたり15名の参加人数とし60人に提供

【事業者紹介】

私たちユニバーサル・サウンドデザインは、老人性難聴や中途失聴の方に優しい取り組みを行っています。耳は人と人とのつながりをもつための機能です。テレビドラマや映画のセリフ、役所や病院での呼び出しの声、家族や友人との会話、最近聞こえにくくなっていますか？ 聞こえにくくなったら、補聴器を使えば・・・と誰もが思われることです。しかし、声や音を発する側としても聞こえについて配慮をするべきではないでしょうか？ だれもがよりよく聞こえやすい環境が増えると人生はもう少し豊かで楽しくなる！「声と音のバリアフリー」を目指し私達は活動しています。

《問合せ先》 (連絡方法 (電話番号など)、連絡者名をご記入ください。)

TEL/FAX 047-702-7792 副理事長 中石 真一路

市民活動助成事業

ゆいの花音楽会事業	団体名	松戸ウインドアンサンブル
------------------	-----	--------------

【事業内容】

平成24年度事業の取り組み

核家族化が進み、町内会での個々の役割が薄れ、ご近所付き合いが希薄となっている現在、高齢者の孤独死や子供への虐待など個人の「孤独」や「無縁社会」に対しての問題が増加しています。

事業費	70,000円
自己資金	20,000円
助成金	50,000円

地域での演奏活動や音楽に触れあう講座などの音楽活動を、そこで出会った仲間と一緒に楽しむ事で地域の活性化（ふれあい）や、孤独や引きこもりに悩む人たちへの繋がりに少しでも役立てられればと考えています。

事業内容及びスケジュール

①音楽ができる場の提供

*「松戸ウインドアンサンブル」を基盤に、初心者やブランクがある方でも演奏技術のレベルに関係なく、音楽を共に楽しみたい方に音楽ができる場を提供しています。

②演奏会の開催

- *観客の方も共に演奏会を楽しめるような「ゆいの花音楽会」をゆいの花公園にて年2回開催します。
- ・楽器経験者の方で楽器を持って来て頂いた方には、楽譜を貸し出しますので、一緒に演奏することができます。
 - ・ブランクの長い楽器経験者で楽器を持っていない方に、その場に所有の楽器がある場合は、楽器をふれて頂けるような講座を開催します。（講師・指導は松戸ウインドアンサンブルの団員）
 - ・演奏している曲の歌詞カードを作成して、来ていただいた方に歌ってもらいます。

4月～6月	広報活動（年間を通して実施）	ゆいの花音楽会【春フェスタ】	合奏練習の実施
7月～9月	合奏練習の実施		
10月～12月	ゆいの花音楽会【秋フェスタ】	合奏練習の実施	
1月～3月	合奏練習の実施		

平成24年度事業の目標

- ・ゆいの花音楽会の開催実施
 - 1回の演奏会（すべての講座を含む）で参加者およそ100名×年2回=200名に提供します
 - ・合奏練習の実施合奏練習
 - 毎月の合奏の場の提供は5名×年12回=60名に提供します。
- ゆいの花音楽会への参加登録者を募集し、アンケート調査や参加者の意見などを集約し、次期演奏会に反映していきます。また登録者には手紙の配布や開催のお知らせを伝えることで、継続ある繋がりの場を提供できるようにします。

【事業者紹介】

当楽団は松戸市の社会教育団体として、「人と人とのつながりを目的とした上で音楽を愉しもう！」と2009年8月に設立しました。

この楽団は音楽をするための技術力に重きを置くのではなく、人と人とのつながりを大切にした音楽をみんなで一緒に楽しんでいます。ショッピングモールや市の行事に参加することで、社会貢献をするとともに、個々の居場所がきちんと存在する楽団を目指しています。

《問合せ先》松戸ウインドアンサンブル 団長 駒木健二 080-3511-5364 E-mail:matsudowe@gmail.com

平成24年5月

発行 松戸市 市民環境本部 市民担当部 協働推進課

〒271-8588 松戸市根本387-5

TEL 047-366-7062

FAX 047-704-4009

E-mail mckyoudou@city.matsudo.chiba.jp